知識の花弁

三田メディアセンターだより

No.1
2013春

ようこそ
三田メディアセンターへ!

知って良かった ツール＆サービス
電子ブックのすゝめ

コレクションの広場
三田文学ライブラリー

図書館の舞台ウラ
休館中の一斉捜査、スタッフ発動!

貴重書紹介
『第２回世界航海記』

スタッフレポート
英国図書館巡りのススメ

主な出来事（2012.10-2013.3）

慶應義塾図書館

発刊にあたって

15年間三田メディアセンターのニューズレターとして親しまれてきた「Mita Media Center News」が生まれ変わりました。初号の「メディアセンターニュース」No.1が発刊された1998年といえば、コンシューマー向けに設計されたWindows98が発売され、以来PCとインターネットが圧倒的なスピードで社会に普及していった年でした。そして今やモーバイル全盛です。図書館の世界にも電子雑誌や電子書籍やデータベースが急速に入り込み、紙と電子の棲み分けは、学術情報の世界でも毎日の生活の中でも着々と進んでいます。我々が展開するパブリシティもそうした変化に対応しなければ、とたんに力を失ってしまいます。そこでより効果的な広報展開を目指して、即時的な情報はウェブサイトへ、読み物的な記事は紙媒体へと交通整理をしました。その結果生まれたのが、この「知識の花弁：三田メディアセンターだより」です。誌名は、図書館正面入口に銀色に輝く飯田善國作のモービル彫刻の名称に因んだものです。「News」よりページ数を増やし、多彩なカラーページなども加えながら利用者の皆さんに魅力的な話題を提供してゆきたいと考えています。

三田メディアセンター事務長　風間 茂彦

ようこそ三田メディアセンターへ!

三田メディアセンターには、上級学年の学生や研究者の方のための環境が整えられています。日吉から進級した学生のみなさんも、他大学からいらっしゃった大学院生や教員のみなさんも、そして今年はいよいよ卒論を書くぞ！というみなさんも、ぜひ活用してください。

POINT 1

3つの図書館と豊富な蔵書

三田メディアセンターは、新館・旧館・南館図書室という3つの図書館からなっており、そこにある260万冊を超える蔵書が、皆さんの利用を待っています。学部生の場合、三田の本は10冊まで借りられます。それとは別に、他のキャンパスの本も取り寄せて借りることができます。

図書館旧館

図書館（新館）

南館

POINT 2

データベースを味方につけて

図書館ウェブサイトの「データベースナビ」をチェック。論文情報、新聞記事、企業情報、判例など、およそ100種類のデータベースが利用できます。レポートに卒論に就活に、きっと役立ちます。

利用可能なデータベースの例

データベースナビ

POINT 3

アカデミックな雰囲気に包まれよう

大学院生や研究者も多く利用する三田の図書館では、静かに落ち着いて勉強することができます。

歴代教員の旧蔵書や、イギリス議会資料、百科全書などの西洋古典籍、御伽草子や奈良絵本のような日本古来の資料など、貴重な資料も数多く所蔵しています。このような特色あるコレクションは、展示室などで公開しています。

[A] 閲覧室で勉強する学生たち。
[B] 新館 IFにある展示室。毎月さまざまな展示を行っています。
[C・D] 三田の図書館には膨大な数の蔵書があります。

POINT 4

図書館を使いこなすには

3つの図書館、260万冊超の蔵書、100以上のデータベース…。三田の図書館を使いこなすのは難しいと感じたら「ライブラリー・オリエンテーション」に申し込んでみませんか？ みなさんのゼミやクラスのテーマに合わせて、おすすめ資料やデータベースをご紹介するオンデマンド・セミナーです。毎年リピートしているゼミも多く、昨年度は83ゼミ・授業、1,054人が参加しました。詳しくはレファレンスカウンターへお尋ねください。お申込みをお待ちしています。

こんなに資料があるなんて
知らなかった。
もっと図書館を活用していきたい。

図書館は利用していたが、
知っているつもりで
知らないことがたくさんあった。

（昨年度参加者の声より）

電動の本棚に
びっくり！

知って良かった　ツール＆サービス

電子ブックのすゝめ

電子ブック（E-Book）とは、書籍の内容がhtmlやPDFファイルで提供されるもので、ネットワークを通じてパソコンや携帯などの画面から閲覧できる図書のことです。

メディアセンターでは辞書類をはじめ、さまざまな電子学術書を購入（契約）しています。同一の図書が冊子に加えて電子でも利用できる場合も増えていて、現在では30万冊を超えるタイトルが利用できます。

以前は、洋書がほとんどでしたが、最近になって和書も増え、中にはシラバスに掲載されている教科書や三田の教員著作などもありますので、ぜひ、利用してみてください。

電子ブックは基本的にKOSMOSでのタイトル検索が可能ですが、それ以外の検索方法で利用できるものもあります。ここでは、具体的にタイトルがわからない場合などの利用方法をいくつかご紹介します。

・・・

「データベースナビ」を使って

データベースナビを開き、資料タイプを「図書」にして検索してみると、42件ヒットします。その中でいくつかお薦めのものをあげてみます。

Maruzen eBook Library

和書のみの提供となります。購読契約タイトル一覧を開くと、具体的にタイトルを決めていなくても、どんなものが入っているかを一覧することができ、そこから本文にアクセスすることができます。

EBSCOhost ebook Collection（旧NetLibrary）

和書、洋書が含まれています。書名・著者名検索・本文検索のほか、主題で絞り込むこともできます。

ジャパンナレッジ・プラスNRK

「日本大百科全書」「日本国語大辞典」「国史大辞典」などの辞書類が豊富で、さらに、「東洋文庫」「日本古典文学全集」などの全集が含まれています。

Cambridge Books Online（CBO）

ケンブリッジ大学出版局の発行する電子ブックです。Business & Management, Economics, Politics ほか7つの分野の図書を利用できます。主題ごとにタイトルをブラウズできるほか、すべての図書のフルテキスト検索ができるので、データベースとしての利用もできます。

データベースナビ

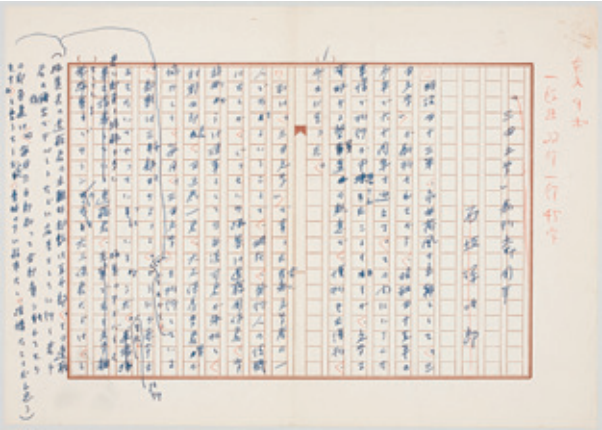
Maruzen eBook Library

コレクションの広場

三田文学ライブラリー

三田文学ライブラリーは、昭和41年に図書館長であった佐藤朔文学部教授の提唱で慶應義塾図書館の特殊コレクションとして発足しました。当時の図書館は久保田万太郎の全著作および諸資料、泉鏡花の原稿、遺品および旧蔵書のまとまったコレクションを所蔵していました。また、休刊していた「三田文学」の復刊が決まったことなどが発足の後押しとなり、発起人が広く関係者に初版本や原稿、書簡の寄贈を呼び掛けたことで、文人のご遺族、関係者から多数の寄贈を受け蒐集が始まりました。

昭和42年11月に最初の目録が発行され、その後、昭和54年3月末現在の増加目録を最後に目録が作成されず、文庫としての蒐集方針が不明確になって長い年月がたっていました。そこで、『三田文学ライブラリー目録』の作成をきっかけに平成22年に再スタートを切りました。蒐集対象とする文人は、慶應義塾の卒業生や教員など慶應義塾に関わりが深く「三田文学」にも評価され、かつ物故者である106名と定め、収蔵する主なものは初版本、原稿、書簡、「三田文学」をはじめ文人に関わりの深い雑誌とすることに決定しました。



コレクションには多くの初版本があります。原装保存を原則としているため、通常の図書館蔵書のような請求記号ラベルの貼付や修理・再製本は一切行いません。刊行当時の装丁をそのままに、凝った函、美しいブックカバーのデザインを見ることができます。

原稿は、推敲の跡や、文字の癖、使用した筆記具など、自筆原稿でなければ分からない執筆の様子が窺えます。書簡はプライバシーの問題で公開が制限されますが、年始の挨拶、近況報告、原稿に関すること以外に食事をする場所の相談、漢字の読み方を問うなど他愛のないやりとりもあり、当時の文人の生活や人のつながりが垣間見られます。雑誌は、ガリ版刷りの学生同人誌や文人が編集者となった創刊誌などがあり、その序文や編集後記を読むと当時の苦労が窺えます。

なお、原装保存を旨とした特殊コレクションのため、通常の閲覧には供していませんが、学内外の展示を通じて広く公開しています。今年度は5月に三田文学ライブラリーの文人による探偵小説、推理小説の初版本を中心に、その時代背景や人物像もあわせて図書館1階展示室に於いて紹介する予定です。

（五十嵐由美子）

図書館の舞台ウラ

休館中の一斉捜査、スタッフ発動！

皆さんは、読みたい本をKOSMOSで検索し「在架」であることを確認して、書架に行ってみたもののお目あての資料が見つからない！ そんな残念な経験をしたことがあるでしょうか。そんな思いをすることがないように、図書館スタッフは返却された資料を日々細心の注意を払って元の書架に戻します。また、学生スタッフにも協力してもらって資料が請求記号の順に正しく並べられているか、書架上で請求記号を1点1点確認する作業（＝シェルフリーディング）を行っています。

さらに三田キャンパスでは毎年2月、入試期間中の約10日間の閉館期間を利用して、蔵書点検を行っています。具体的には、書架の並び順のリストを用意して、スタッフが2人1組になり、一人がリストを順に読みあげ、もう一人が書架に該当資料があるか1冊ずつ確認する作業です。読み合せのため十数組のペアが書架の間に入り、一日中、数字を唱える声が館内に響きます。だんだん声が枯れてくるので休憩時には飴や水分の補給が欠かせません。

こうして一斉に読み合せをすることで、行方不明になった資料を確認することの他に、紛失したと思っていた資料が別の書架から戻る、傷んだ資料を修理担当に回す、データの間違いが見つかる等、様々なことが明らかになります。できれば全ての蔵書を確認したいところですが、260万冊を超える膨大な蔵書すべてを10日程度で点検することはできません。そこで利用頻度の高い、地下1階の和書を毎年、その他の資料は数年おきに行っています。今年の蔵書点検では図書57万冊と雑誌7万冊を対象に行い、約200冊が新たに欠本となり、代わりに100冊ほどが発見されました。「不明」や「欠本」だった資料を発見してKOSMOSのデータを「在架」に変更するのは一連の作業の中でもっともワクワクする瞬間です。

蔵書点検が終わった春休み、書架には資料が整然と並び、人気の少ない閲覧室には柔らかな陽が射して、図書館は1年中でもっとも穏やかな雰囲気に包まれます。そして新年度を迎えると大量の図書が返却され、新たな図書が貸出され、書架は徐々に乱れていきます。スタッフはシェルフリーディングを再開し…新しい1年が始まります。

（閲覧担当）

貴重書紹介

『第2回世界航海記』 ジェームズ・クック　初版　ロンドン　1777年

Cook, James W. (1728-1779)
A voyage towards the South Pole, and round the world. London: Printed for W. Strahan & T. Cadell, 1777.
2 v. ; 30 cm. + 1 atlas (52 cm.).　[143X@17@3@1～3]

山口　徹（文学部教授）

オセアニアは途方もない広がりをもつ海洋であり、その広漠たる海にポリネシアやミクロネシア、メラネシアの島々が浮かんでいる。いや、この表現は不適切かもしれない。トンガ出身の社会人類学者であり小説家でもあるエペリ・ハウオファは、世界から隔絶した低発展の島社会をイメージさせるこの表現をひっくり返し、「島々が浮かぶ我われの海」と読み替えた。海は島々を孤立させるのではなく、島と島、人と人をつなぐ交通路であり、陸と海の狭間にある浜辺は出会いと交渉の場というわけだ。数千年にわたって暮らしてきた島の人々にしてみれば、当然のことなのかもしれない。

それでも、西欧の探検航海が本格化したのは18世紀後半に入ってからで、帆船の位置を正確に計るクリノメーターの開発と壊血病の克服以降のことである。だから自分たちよりもずっと前に、先住の人々が小さなカヌーを操って、大海原を乗り越えやって来たとは想定しがたかったのだろう。未知の海域は不思議に満ち溢れ、人智を超えた神々の力を想起させ、さまざまな想像がそこから生み出されてきた。眉唾物の書物によってムーやレムリアと呼ばれた「失われた大陸」言説も実はここに端を発する。島々は海に沈んだ南方大陸（テラ・オーストラリス）の名残であり、島民はその大災害を生き延びた古代文明の末裔というわけだ。

そんな島々の暮らしは楽園のように描かれた。先鞭をつけたのは、フランス海軍のブーゲンビルである。1768年にポリネシアのタヒチに立ち寄った彼は、島の風景と島民の立ち居振る舞いを古代ギリシャに重ね合わせ、「自然は、ここに、世界で最も美しい風土をもたらした。喜びに満ち、自然自体が人々に秩序を授け、彼らは安らかにそれに従い、たぶん地球上で最も幸福な社会をつくっている。…だから私はこの地を、新たなるシテールと名づけた」と記している。

もちろん、オセアニアのイメージは一枚岩ではない。タヒチに代表されるポリネシアとの対比で、メラネシアは首狩りや人食い、人身供犠に満ちた島々として西欧に伝えられた。その野蛮さは忌むべき対象であると同時に、得体のしれない生命力に満ちた対象でもあり、西欧の博物館にもたらされたグロテスクな木製神像などが、後にモダンアートの旗手たちの心を大いに惹きつけたことが知られている。

穏やかな「楽園」と力強い「野蛮」。このアンビバレントでオリエンタリズム的なイメージが西欧によってオセアニアに付与されてゆく、まさにその最初期にキャプテン・クックの3回にわたる輝かしい探検航海が行われたのである。その航海記録は短い期間に再版を重ねるほどの人気であった。本塾には、このうち第2回航海誌の初版本がつい先ごろ所蔵されることとなった。2巻構成の本文冊に加えて、出版当時のオリジナルボードと装丁を保つフォリオサイズの銅板刷り図版巻が付属する。18世紀書物の初版本は、その所蔵者の嗜好によって再製本されていることが多く、別冊に纏められた銅版画は解かれ、大型のものは裁断されたり、折り畳まれて本文冊に組み込まれている。これに対して、義塾所蔵の銅版画は1枚1枚の保存状態もきわめて良好であり、本文冊以上に別冊図版巻こそが主役といっても良い。

経験主義にもとづく西欧近代科学の発展にとって、クックらの功績は計り知れない。第1回航海に同行し、数万点の動植物標本を収集したバンクスやソランダーの名前はよく知られている。また、第2回航海に同行したホッジスは外光派の画家で、レゾリューション号のキャビンの大窓を通して目の前に広がる島々の峰や海浜の風景を、きわめて写実的に油絵具で描き残している。航海中の彼は、実見したとおり描くことを信条としていた。

しかし、それとは対照的に航海誌の図版には、楽園と野蛮のイメージが忍び込んでいるのである。トンガ島民との友好的な出会いを描いた『ミネルバへの上陸』や、バヌアツ諸島民との水際での交戦を描いた『エラマンガへの上陸』は、その典型例であろう。前者には、南島の楽園で催されるギリシャ劇の俳優のように島民が描かれている。後者の島民はいくぶん写実的ではあるが、目を凝らして見るとオリエント風のターバンを巻いた者たちが紛れ込んでいる。どうやら図版制作にかかわった画家や彫版師の仕業らしい。『ミネルバへの上陸』をデッサンしたシプリアニはオセアニアに一度も足を踏み入れたことがない上に、新古典派の画家としても売れっ子だったから、ホッジスのスケッチを楽園風に味付けしたのだろう。『エラマンガへの上陸』を彫版したシャーウィンもまた、中近東やインドのイメージを加味してしまったのかもしれない。第2回航海に同行した自然誌画家のゲオルク・フォースターが、こうした図版を痛烈に批判して以来、探検航海の公式報告書では現地での記録を忠実に再現することが当然のこととして求められるようになった。だから、義塾が所蔵する初版本は貴重書としてはもちろん、他者や異文化のオリエンタリズム的表象と経験主義的記録のせめぎ合いを示す史料としてきわめて高い価値をもつことになる。

島の人びとにとって浜辺は遠い昔から、海を渡り来る他者との出会いの場だった。毎年来島する訪問神はその象徴的存在であったことを民族誌は伝えている。時に恭しく時に荒々しく、宇宙論的儀礼の中で島民と神々の交渉が演じられてきた。島々への上陸を描いた先の図版は、オセアニアと西欧の異質なるもの同士のせめぎ合いを伝える史料でもあるのだ。

[上]『ミネルバへの上陸』"The Landing at Middleburgh"
Engraving after Hodges by J.K. Sherwin.
[下]『エラマンガへの上陸』"The Landing at Erramanga, one of the New Hebrides"
Engraving after Hodges by J.K. Sherwin.

スタッフレポート

英国図書館巡りのススメ

山田　摩耶（レファレンス担当）

昨年ロンドンオリンピックで沸いたイギリス。そのイギリスにもし旅行に行くとしたら、どのように過ごしますか？　美術館や博物館、史跡など観光地を巡る？　それともサッカー観戦？　ミュージカルやバレエ観劇？などいろいろ楽しめることがありますが、もし時間があれば、図書館を訪れてみるのもいかがですか。

日本と同じく、イギリスの大学図書館でも閲覧席でPCと資料片手にEssayを執筆する学生、ガラス張りのGroup Study Roomではプラズマを見ながら討論する学生の姿があり図書館が活用されています。所蔵されている資料は図書館により様々ですが、海外の日本研究者のための日本語資料も数多く所蔵されているほか、最近のイギリスでのアニメ人気などにより『ONE PIECE』などの英語に翻訳された日本のマンガも、大学図書館や公共図書館に所蔵されています。しかし、今回ご紹介する以下の図書館では、日本ではなかなか見ることのできない数多くの貴重書や、歴史ある建築物としての図書館を楽しむことができます。

ロンドン市内にあるイギリスの国立図書館の大英図書館では、世界各国から集められた貴重な資料が分野ごとにまとめて展示室に並べられています。そこには英国大憲章のマグナ・カルタから始まり、レオナルド・ダ・ヴィンチの直筆のノート、ヘンデルやベートーヴェンの直筆楽譜、数々のインキュナブラ、アジア各国の経典類や、日本の百万塔陀羅尼や伊勢物語図会などもあれば、イギリスらしくビートルズの直筆歌詞原稿までも見ることができます。こうした貴重書はもちろんデジタル化され、大英図書館のウェブサイト上で世界中どこからでも楽しむことができますが、やはり実物を見るとその歴史の重みを肌で感じることができると思います。

また、イギリスは歴史ある大学が多いことでも知られていますが、そうした大学図書館でも多くの貴重な資料を所蔵し図書館で公開しています。

ケンブリッジ大学のトリニティカレッジは、1546年ヘンリー8世により創設されて以来、アイザック・ニュートンや『くまのプーさん』の著者アラン・アレクサンダー・ミルンなどの出身校としても知られ、今まで30名以上のノーベル賞受賞者を輩出したことでも有名なカレッジです。そこにあるWren Libraryは、イギリスの著名な建築家かつ天文学者のクリストファー・レンにより1695年に完成し、古い時代の写本や図書が配架されているだけでなく、ニュートン直筆ノートや使用したステッキ、髪の毛（！）までもが展示されています。

[Duke Humfrey's Library 館内]

また、オックスフォード大学にも学部図書館やカレッジの図書館も含めると実に100以上もの図書館がありますが、その中のひとつ、ハリーポッターの映画の撮影にも使われたDuke Humfrey's Libraryは、1487年からある外観も歴史ある建物で、主に音楽関係、地図類の資料や16、17世紀に刊行された図書も数多く配架され、観光客向けの館内ツアーが行われるほどです。かつては図書が非常に貴重だったため、紛失防止のために図書に鎖が取り付けられ書棚に固定されていました。

これらの図書館は驚くべきことに、現在でも大学の所属者や学外の利用者に図書が活用され、現役の図書館として機能しています。特にReader Card（利用券）がなくても、建物の一部の見学はできますが（Duke Humfrey's Libraryはツアー参加が必要）、実際に閲覧席を使ったり、特定の資料を利用する場合は、各図書館発行のReader Cardを作成する必要があります（利用館や、利用期間に応じて料金が発生します）。

何世紀もの間、多くの研究者たちがその偉大な研究成果を生み出すために利用した図書館にたたずみ、先人たちの遺した知的財産を見ることも有意義な時間の過ごし方かもしれません。

[British Library 外観]

[Wren Library 外観]

[Wren Library 館内]　Photograph © Andrew Dunn

主な出来事（2012.10－2013.3）

第24回 慶應義塾図書館貴重書展示会
「ルカ・パチョーリの『スムマ』から福澤へ―複式簿記の伝播と会計の進化」開催

2012年10月24日から30日まで、丸善日本橋店3階ギャラリーにて標記の展示が開催されました。貴重書展示会は、図書館所蔵の貴重書を広くご覧頂く機会として毎年開催されていますが、第1回（1985年）から丸善日本橋店ギャラリー、第18回（2005年）からは丸の内本店ギャラリーにて開催されており、2012年は8年ぶりに日本橋店での開催となりました。

中世ルネサンス期のイタリアに生まれ、「イタリア式簿記」とも称される複式簿記は、数学書『スムマ』などをもってネーデルラントやイギリスに伝播し、資本主義経済の発展と会計の進化を支えました。日本には、明治初期に『帳合之法』などによって紹介されました。本展示会はこの伝播の軌跡を辿り、複式簿記について書かれた最古の書物であるルカ・パチョーリの『スムマ』や、日本初の洋式簿記書である福澤諭吉の『帳合之法』をはじめとして、約40点の資料が展示されました。

10月26日・27日には、展示会監修者の商学部友岡賛教授によるギャラリートークが行われました。期間中の来場者は900名を超え、盛況のうちに幕を閉じました。

新着図書情報　配信スタート

この新刊書はいつごろ図書館に入るのだろう…そう思ったことはありませんか？三田メディアセンターでは、2012年12月のウェブサイトのリニューアルにともない、ウェブサイト上で新着図書情報の配信を開始しました。新たに新館に配架される和書（請求記号がA@で始まるもの）の情報を配信しています。トップページのKOSMOS検索窓の下にある「新着図書」から、月別、日ごとの新着図書が表紙の画像つきで公開されているため、書店に並ぶ新刊書を手に取るように、ウェブサイトから新刊書を見ることができます。新着図書情報に掲載されている図書の情報はKOSMOSへリンクされ、詳しい書誌情報や在架状況、他キャンパスの所蔵状況も公開されています。探している新刊書を見つけられるのはもちろん、メディアセンターがどのような図書を蔵書として受け入れているのかも知ることができます。新しくなったウェブサイトは、パソコンだけでなく、スマートフォンからもアクセス可能です。図書館（新館）1階のメインカウンター横にある新着図書案内とあわせて、ぜひご利用ください。

『慶應義塾図書館所蔵奈良文庫目録』刊行――文献シリーズ復刊

2013年3月1日に『慶應義塾図書館所蔵奈良文庫目録』（文献シリーズNo.31）を刊行しました。奈良文庫とは、慶應義塾図書館が所蔵する奈良鹿郎（ならしかろう）（1889～1960　本名：秀治）氏の俳諧関係の旧蔵書950点のコレクションです。昭和49（1974）年にご遺族から譲り受け、全点が準貴重書として収蔵されています。今回の目録は、平成21（2009）年に刊行した『慶應義塾図書館和漢貴重書目録』の準備段階で作成したデータシートを元にして作成されましたが、奈良文庫全点を調査し詳細な書誌データをとることにより、図書館の蔵書目録では載せることができなかった詳細な注記を載せることが可能となりました。

慶應義塾図書館が刊行する「文献シリーズ」は、昭和44（1969）年に第1号となる『EEC（ヨーロッパ経済共同体）に関する文献目録　1963-1968』を刊行し、平成13（2001）年のNo.30『江戸・明治　京都の天気表5』以降休刊となっていましたが、この度約12年ぶりに復刊の運びとなりました。微力ながら、塾内外の研究へ寄与することをめざし、今後も継続的な刊行を予定しています。

メインカウンターで販売中（¥1,000）

編集後記

図書館をもっとよく知ってもらいたい、手に取って読んでもらえるような広報誌にしたい、という思いで見た目も内容も一新した、リニューアル第1号はいかがでしたでしょうか。タイトルも「三田メディアセンターニュース」から、図書館（新館）を象徴するモニュメントの名前を使わせていただき「知識の花弁」へと変更しました。次は秋の刊行を予定しています。次号の企画も検討中ですので、楽しみにしていただければ幸いです。

編集・発行　慶應義塾大学 三田メディアセンター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL 03-5427-1654　FAX 03-5484-7780
発行日　平成25年4月1日
印　刷　有限会社 梅沢印刷所
http://www.mita.lib.keio.ac.jp